

令和7年度 第2回 地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 議事要旨

日 時 : 令和7年8月1日(金)午後3時00分から午後4時5分まで
場 所 : 大牟田市役所北別館4階第1会議室

○地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員

一宮委員長、富安副委員長、河野委員、赤星委員

事務局等 : 松島保健福祉部長、龍保健福祉副部長、大曲保健衛生課長ほか
鳥村理事長、倉本副理事長、村上理事、福森理事、森崎理事、城戸理事ほか

1 開 会

2 議事要旨

(1) 令和6事業年度の業務実績に関する評価(案)について

事務局から、資料⑤-1、⑤-2に基づき、経営評価プランの内容を踏まえた標記評価案を説明後、質疑応答がなされた。概要については、次のとおり。

●高度な医療であるロボット手術は、低侵襲のため入院期間が短くなり、経営は悪くなるのか。また、実際にロボット手術を導入したことにより利益、もしくは減収が見込まれるデータがあれば教えてほしい。

ロボット手術に関しては、取れる点数はあまり変わらないが、腹腔鏡下手術よりも材料費がかかる。
ダビンチに関しては、高額な保守料もかかっているため、プラスになる部分は少ない状況であり、また、低侵襲の手術のため、入院期間は開腹するときよりも短くなり、なかなかプラスに結びついていないところはある。採算性は低いが、若手外科医の確保を目的に導入していると理解をしている。

●ロボット手術の診療報酬が普通の腹腔鏡に比べてあまり差がないが、支出費用に関しては、通常の腹腔手術よりもはるかにかかる。長い目で見て、ロボット手術で安全性を高める取り組みや、多くの方が同じやり方で手術できるメリットもあるので、外科医が少なくなってきた時代に、取り組まざるを得ないことと思う。
いずれ安全性も腹腔鏡を凌駕する見込みもあり、もう少し診療報酬が上がるとよいが、今は投資の時期かと思う。

●財務に関しては、ほとんどの病院が赤字になっている。例えば、国立大学の病院も全部合わせると400億ぐらいの赤字。東京の都立病院も240億ぐらいの赤字になって、現在の診療報酬体系と、物価や社会情勢からすると、黒字は極めて難しいと理解するため、6年度と7年度は、赤字はやむを得ないと思う。
しかし、公立病院の本来の目的は利潤を追求するわけではないので、患者さんと市民のための、しっかりした医療を今後も続けていただければよいと思う。

●資料⑤－1の2ページに、評価に当たり考慮した事項に、ロボット手術、がん診療においても高度で専門的な医療に取り組んでいること、また、救急医療についても、できるだけ断らない、最後の砦の覚悟ともいえる断らない救急医療、それから地域医療支援病院としても、地域の医療機関との連携を着実に進めている努力を十分されてると思う。

●本当に地域医療として非常に貢献されてる。
ただ、経営的に非常に厳しい状況になると、職員の確保が難しいところがある。
特に大牟田地域も、人口減少になってきてるので、看護職員についても、地域の医療の方に貢献していきたいというような、魅力ある病院づくりを職員の皆様と、市民の方たちに、発信してもらいたいと思う。

●在院日数について、ロボット手術と腹腔鏡はあまり差がないと思うが、DPCで看護必要度がかかなり厳しくなっているので、無理に伸ばすとかえってよくないということで、できるだけDPCの期間の2で収めようと大きな病院が取り組んでいると思う。そのため、在院日数が短くなるのは、悪いことではないと思う。

●令和6年度の業績を踏まえ今後活躍を期待する事項の中の一番最後、職員の処遇改善や検討に関して、離職者を減らすためにも、ぜひ処遇改善を積極的に行っていただきたいと思う。そうしなければ、離職者は増える。健全経営ができてかわからない中での処遇改善は、立場上難しいのはわかるが、先ほどの機械の投資ではないが、人間に対する投資も必要と思う。積極的に行っていかないと、地域医療が成り立たなくなる可能性がある。

●行政のサポートですかね。医師については病院長、法人の方々の努力で大学からの派遣を継続しているが、それ以外の人材確保や処遇改善というのは、市としては、何かあるか。

何か今の段階で具体的に答えることは難しいが、医師や看護師の確保など、処遇改善は非常に重要と思う。それらを含めて、市立病院でも、運営に対して努力をしているのは重々承知をしているので、具体的な中身については、適宜協議しながら進めていきたいと思う。

●今、看護師の福岡県の地域偏在が非常にあるので、各病院の地区の中で連携をとりながら、工夫されてる。
大牟田の有明医療圏内で、情報交換をしながら確保に努めていただき、実習にこられている学生たちが、ここに就職したいと思えるような、魅力ある職場づくりと、指導体制がすごく重要ということで、今看護協会の方でも、病院の中での実習指導力をいかに高めていくか検討しているので、ご理解をいただきたいと思う。

●市立病院なので、市と直結してるわけなので、行政や看護協会の方にも看護人材の確保について相談支援をいただくと、少しは楽になるかもしれない。

●制度上の問題で、ずっと基幹病院で急性期をやっている病院が赤字ということは致し方がないと思う。
施設基準は、できるだけ取れるものは取る努力はもちろんされていると思うが、経営のためだけではなく、施設基準の中にはそれを獲得することで、医療の質を上げるという面もあるので、努力して基準を取り、経営も質を上げる努力はずっとやることではないかと思う。

●市立病院の難しいところは収支がいいところを持つ反面、収支がうまくいかない部門を持ち合わせてあるのが事実だと思う。そこに対して、補助もある程度必要になるし、経営は非常に厳しいと思うが、市民のために、ぜひ頑張っていたきたいと思う。その中で効率化を求めていくしかないと思うし、全国の公立病院が赤字ということは国もおそらく考えていると思うので、もう少し待つしかない。
市立病院としては効率化を図ることをやり、診療報酬の改定を待つしかないと思う。

●行政の支援金に該当するのであれば、手を挙げていただくことも必要で、ぜひアンテナを張り巡らしていただくといいと思う。
また、支出の削減について大体公立病院は、一般の民間病院に比べ、高く購入していると思うが、価格交渉部門の人材をしっかりと採用し活動していると思うし、そのような努力は継続していただきたい。

●大項目1から3まで、異議なしとする。
大項目評価において、A評価が2つ、B評価が1つなので、全体評価は、中期目標・中期計画の達成に向けて、概ね計画通りに進んでいると評価している。
2ページ、3ページに評価にあたり、考慮した事項、今後の活躍を期待する点が記載されてあるが、何かご意見はないか。(意見なし)
これについて異議なしとする。
令和6事業年度の業務実施実績に関する評価については、評価委員会として、妥当であるとする。

(2) 令和6年度財務諸表の承認について

特段の意見なし。

(3) 令和6事業年度の業務実績に関する評価及び令和6年度財務諸表の承認に対する意見書(案)について

異議なく、了承される。

(4) 第4期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価(案)について

事務局から、資料⑥に基づき、経営評価プランの内容を踏まえた標記評価案を説明後、質疑応答がなされた。概要については、次のとおり。

●これだけ頑張って地域の方々の健康、命を守っていただいている。医療は生活のとても大切なインフラでもあり、行政としても、住民の方々が暮らしやすいことを目指すのであれば、医療に支援していかないと達成できなくなってしまうので、このような現状や、委員の皆様のご意見を、議会なり市長なりに強く訴えて支援していただきたい。第4期中期計画の取り組みが書かれてるが、地域の方々が信頼できる病院であり続けるためには、従来の支援のあり方では追いつかなくなる気がするので、ぜひ、力を入れていただきたいと思う。
何かご意見はないか。(意見なし)
これについて異議なしとする。
第4期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価について、評価委員会として、妥当であるとする。

- (5) 第4期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価に対する意見書(案)について
異議なく、了承される。

2回にわたる評価委員会の議論を踏まえ、市としての評価結果を策定し、9月議会に報告の後、公表する予定を伝え、会議を終了した。